

令和5年度 学校関係者評価書

鈴鹿市立鈴峰中学校			
評価項目	本年度の活動(具体的な手立て)と指標	学校関係者評価	今後の改善点
学力向上	1 授業改善 ・テーマに沿った課題克服手段を検証する研究授業の実施 ・鳴門教育大学との連携事業を活用した「わかる授業づくり」の取組 2 基礎学力の向上 ・習熟度別授業(1, 3年数学)の実施 ・家庭学習定着の取組 ※全国学調, みえスタディ・チェックの結果平均以上 ※「学校の先生は自分たちにわかりやすく授業を工夫してくれる」90% (成果と課題) △全国学調(国語・数学・英語)は全教科とも全国平均より低かった。みえスタでは1, 2年がとも全教科県平均以上だった。 ○「学校の先生は授業を工夫してくれる」98.7% (昨年度96%) 数学習熟度別授業では少人数授業のため丁寧に指導することができている。 ○ICT機器を活用した愛知県春日井市の取組を手本とした。	・中学校区で連携した家庭学習強化週間の取組は評価できるが、鳴門教育大学のアンケートでは約半数の生徒が平日における学習時間が30分以下という結果になっている。小学校でも毎日最低30分は学習しているので、中学校は家庭学習の時間を確保するために、短時間でも基礎基本の定着を図ることができたり読書をしたりするなどの課題を出してはどうか。 ・先生方の学力向上に対する思いが感じられる。学習だけがすべてではないが、満足していない生徒については、これからの長い人生を歩んでいくため、少しでも満足度があがるように指導してほしい。学習面など全体的に恵まれた環境の中で中学校生活が送られていることがうかがえる。 ・先生によって授業の力量が違うという声がある。改善をお願いしたい。 ・外部の情報を取り入れて工夫し常に不足部分の見直しができる体制が取れていて良い。 ・研究授業で先生たちの授業力アップを図っているのはとても良い。98.7%はとても高い割合で生徒たちにとって安心して学べる環境にある。 ・県外視察を実施して授業改善に取り組んでいることは今後の結果に影響してくると思う。先生方の前向きな姿勢が伝わってくる。子どもたちも先生方も学びあう場を通して個々の力を高めていると思う。	・愛知県春日井市の先進事例を参考に授業改善を行っていく。 ・「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」をめざして授業を工夫していく。 ・家庭学習の手引きを作成し、家庭学習の定着を図る。 ・基礎学力の定着(朝学や基礎プリントを活用) ・3年生の朝学だけでなく、各学年で家庭学習課題を出す。
	授業での1人1台端末活用推進 ・ICT支援員を活用した研修会の実施 ・研究授業の実施 ・先進地視察(年間派遣人数のべ5人)と情報共有 (成果と課題) ○8月にICT支援員を講師とした研修会を実施した。教員が個別にICT支援員に質問することも増加した。 ○愛知県春日井市立高森台中学校, 坂下中学校, 藤山台中学校への視察を行い授業改善を図った。年間派遣人数のべ7人。鈴峰中学校区の小学校も春日井市への視察を行い、授業改善の取組をそろえている。	・中学校区教員の先進地視察は評価できる。時間確保が難しいかもしれないが、校区内での教員研修も進められたらいいと思う。 ・先生たちがいろいろと取り組んでいることに感謝します。社会に出てからもICTは必要不可欠なものである。基礎的なことから応用までしっかり指導いただきたい。 ・端末活用は非常によい。デジタル教科書がもっと導入されれば荷物も少なくなるはず。 ・今の時代にあったICTの導入と活用が行われており良い。不登校への対応にも今以上に活用してほしい。 ・日頃から先生たち自らよく学んでいることがわかる。 ・中学校区で統一した方向に向かって進んでいることは子どもたちの学びにつながっていくと思う。学びあう学習活動の中で、ICTを効率的に活用することによって学力向上・定着につながっていくと思う。	・先進地視察を継続し、調査検証を続けていく。 ・引き続き校内研修, 研究授業を通して、ICTの効果的な活用方法について研究する。 ・情報担当者会を年間5回行っている。その中で研修の時間も確保されている。 ・デジタル教科書の導入についても要望していく。 ・不登校生徒への働きかけは、グーグルクラスルームを日常的に使って行っている学年もあるので、全体にこの取組を拡大していく。
	1 新たな不登校を生まない生徒指導の取組 ・教員と生徒との関係構築と「生徒承認活動」の推進 2 SCや関係機関と連携した不登校対策 ・校内ケース会議の開催 ※先生はあなたの良いところを認めてくれる」95% (成果と課題) ※「先生は良いところを認めてくれる」95.4% (昨年度93.1%) ○教員は「いいとこみつけ」の活用によって、生徒の良さを見ようと意識している。「いいとこみつけ」をデジタル化したことで短時間でたくさんのコメントを作ることができるようになった。 ○教育支援課作成の「児童生徒理解支援シート」を活用して、校区で情報共有を行うようになった。 ○12月末現在30日以上欠席生徒数は令和4年度より減少している。	・学校運営協議会で不登校についての議題を取り上げてはどうか。 ・昨年度は中学校の不登校生徒の割合が、市内他の中学校と比較して高いと聞いていた。今年度は減少していると聞き、少し安心した。不登校にはいろいろな要因があると思われるが、個々に対応した取組をお願いします。「先生は良いところを認めてくれる」満足度95.4%の結果には感謝します。 ・不登校生徒の保護者のケアも大切。相談できる場所を今以上に周知してみてもどうか。 ・不登校は小学校の時、すでに兆候が見られることが多い。小中しっかりと連携して見守ってほしい。 ・新たな不登校を生まない取組として生徒の良い所を認める活動は良い。ぜひ継続してほしい。 ・先生たちが生徒のことを十分に思ってくれていることをとてもうれしく思う。 ・不登校の生徒たちの進路指導を十分にしていたに感謝します。引き続き小学校との連携をお願いしたい。	・児童生徒理解・支援シートを使って情報共有や引継ぎを丁寧に行う。 ・ケース会議等で生徒それぞれの不登校の要因を検討し、対応を考える。 ・不登校生徒やその保護者に外部機関等の情報について積極的に発信していく。 ・非認知能力を高める取組の充実をすすめる。
不登校			

地域連携	1 家庭学習の定着 ・ 中学校区で連携した家庭学習強化週間の設定 2 小中9年間を見通した教育活動の展開 ・ 校区拡大学校運営協議会の開催 ※「1時間＋学年×30分」の家庭学習定着率70%(家庭学習強化週間中) (成果と課題) ※家庭学習強化週間において目標の学習時間を達成した生徒60% ○校区拡大学校運営協議会を開催し、校区全体で児童生徒の課題や地域連携について交流することができた。また、各組織の行事についての調整が円滑にいくように情報共有を行っていく必要があることが確認された。 ○人権フォーラムに学校運営協議会委員の参加を得た。 △「新体力アンケート」の結果では、家庭学習の時間が全国に比べて短い。	・以前は中学校区PTAブロック協議会有り、校区のPTA役員の交流があったがコロナ以降は開催されていない。生徒、教職員だけでなく校区のPTAや地域が交流できる場がもっとほしい。小中連携・小小連携など規模が小さくてもいいので、小規模校の特性を活かして連携の場を設定してみてはどうか。 ・地域連携の定義や活動が今一つ理解できていないが、鈴峰中学校区に住んでいるので、できる限り生徒たちへの支援をしていきたい。 ・家庭学習の定着の項目を地域連携ではなく学力向上に移してはどうか。 ・学習の定着も大切であるが、学校でも家庭でも組織の一員として作業したり手伝ったりすることも大切である。働く子どもは自然と勉強するようになるのではないか。 ・家庭学習強化週間(メディアコントロール)をもっと周知してほしい。 ・委員会で支援の必要な子どもたちへの具体的な取組を聞き、先生方の熱意を感じた。今後も情報共有・共通理解を密にして子どもたちへの支援をお願いしたい。 ・あいさつがしっかりできること、落ち着いた学習態度、指導したことが入る子どもたち、先生方の一貫した指導の成果だと思う。	・家庭学習の手引きを作成し、家庭学習の定着を図る。 ・校区での共通取組を更に推進する。 ・生徒の活動の様子を見ていただく機会を増やす。 ・学校行事を周知し、参加を促す。 ・道徳等の授業内容について学年通信等で伝えていく。
人権教育	いじめのない集団作り ・ 人権学習の充実 ・ 校区人権フォーラムの開催 ※いじめを見たり聞いたりしたときに、やめるように言ったり誰かに伝えたりすることができる 90%以上 (成果と課題) ※いじめを見たり聞いたりしたときに、やめるように言ったり誰かに伝えたりすることができる 91.8% (昨年度86.3%) ○人権フォーラムでは、児童生徒、教員、地域住民がそれぞれ意見を出し合い、活発な議論が行われた。	・校区人権フォーラムはいい取組です。中身を工夫して、これからも充実・発展させてほしい。 ・人権フォーラムは、毎年中学生がうまくリードしており、参加者全員が自分の思いを話している。感心する。みんなが楽しく来れる学校づくりに期待している。いじめは、現実問題として、どこの社会でもある。これからいろいろな場面で遭遇すると思われるが、常に相手を気遣う気持ちをもっていてくれたらと思う。 ・大人社会にある「いじめ」悲しいかななくならない。子どもの世界はその縮図。でも努力によって減らすことはできる。 ・代表だけでなく、学校全体でもフォーラムについての内容を同じように取り組んでほしい。 ・アンケート結果の数値が高く驚いた。生徒の意識が高いので、実際の行動に出ることができるよう指導してほしい。人権フォーラムは参加させてもらって小中学生の学びの場としてすばらしい。はっきりとした態度をとれる生徒を育てていただきたい。地域でも機会があるごとに生徒に伝えていく。 ・日常生活の中で、子どもたちの人権感覚・感性をさらに育てていっていただきたい。鈴峰中の職員集団は信頼し合って何でも話し合えると思う。	・引き続き、校区人権フォーラムに学校運営協議会委員の方々の方々の参加をお願いする。 ・校区人権フォーラムでの学びを全校生徒に還元する時間を充実させていく。 ・生徒の実体験に近い事案に沿った内容の人権学習を計画的に実施する。 ・普段の生活の中で発生している人権課題について見逃さない。